

第7回東名遺跡整備指導委員会 議事録

【開催日時】

令和7年10月28日（火）14時30分から16時30分

【開催場所】

佐賀市立金立公民館集会室

【出席者】

【委員】 本中 眞・小畑弘己・金原正明・赤司善彦・有岡大介・谷政司

【事務局】 （地域振興部長）大坪裕樹 （地域振興副部長）小林茂子
（文化財課課長）野田宣心 （文化財課副課長）角信一郎
（史跡整備係）西田巖・馬場晶平・馬場彩香・木島慎治

【助言者】 （文化庁文化資源活用課）中井文化財調査官
（佐賀県文化財保護・活用室）渋谷係長・五島アドバイザー

【オブザーバー】 （佐賀河川事務所）堤建設専門官

【関係者】 （佐賀土木事務所）川島副所長・野田主任主査
（NPO 東名縄文の会）江島理事長・石橋理事
（佐賀市建築住宅課）古賀副課長・藤井主査
（佐賀市建河川砂防課）古川技師

【内容】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 第6回委員会での主な意見とその対応について
 - (2) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設整備状況について
 - (3) 東名遺跡屋外展示実施設計について
 - (4) 今後のスケジュールについて
 - (5) その他

1 開 会

2 あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議 事

(1) 第6回委員会での主な意見とその対応について

【資料1を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

※質疑無し

(2) 東名遺跡ガイダンス・埋蔵文化財センター施設整備状況について

【資料2を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

- ：前回の委員会でも、ガイダンス施設の開館前に、先ほど紹介のあった活動などを行っていることは高評価だったと思う。このような活動を施設の開館後も続けていくと考えて良いのか、加算や引算があるのか。
- ：今回紹介したような縄文講座などについては、引き続き行う方向で考えている。今後は別のプログラムも、実証実験をしながら企画していきたいと思っている。
- ：このような活用事業を行うのに、組織として誰がどのくらいの人数で行っているのかなど、ノウハウも含めて継承性はあるのか。今後も継続していくのであれば、組織的にどういう体制で行っているのかを聞きたい。
- ：体験活動については、土器づくりや石器づくりなど、他にも行ってみたいことは色々ある。貝輪づくりについては、毎年開催していて、大体4人程度の職員で対応している。今後はサポートスタッフを募集するなどして、協力体制を整えていきたいと思っている。特に編みかごワークショップについては、事前準備も時間がかかるので、喜んで、好きで参加していただけるようなサポートスタッフの方を増やしていきたいと思う。ゆくゆくは本物の素材を使った編みかごづくりも行いたいと思っているし、サークル活動など、自主的な活動にも結び付けていきたいと考えている。ただ現時点は、具体的にどのような手続きを踏んで体制整備を行っていくのかまでは考えていない。
- ：そういうプランニングをしておかないと、組織の中の人が変わっていく中で継承されるもの、仕事としてやれるものやれないものが出てくる。個人の頑張りだけで動いているのであれば、非常に危ういと思う。ぜひ、組織として動く、仕事として動くようなプランニングをしっかりとやっていただきたい。現在行われているプログラムについても

う一度練り直していただきたいと思う。

○：了解した。

●：とても大事なポイントだと思う。今後、施設を運営していく上では、どのような企画をやり、どのような実績を上げているのかということは評価の対象になるだろう。最初から色々なことをやっていると、それが前提になった評価になる。将来的な評価の指標がどういうものになり得るのか、自己評価をどのようなプロセスで行っていくのかということも、ある程度見通しながら取り組みを進めると良いと思う。のべつまくなしに始めると、後で收拾がつかなくなったり、あるいは評価に悪影響を与えたりする可能性もある。

とても多彩な取り組みをされており、今後も続けようとしていただいているのは非常に評価できると思う。多分この委員の全員が、頑張っってやっていただきたいと思っているだろう。

●：施設名や愛称の検討はどうなっているのか。

○：市の情報発信アドバイザーと具体的な話をはじめたところである。

《東名遺跡の出土貝殻を使って製作した和紙や磁器の試作品の見学》

●：なかなか新しいアートなイベントになるなどと思う。施設が上手く活用されようとしていることは、非常に良いのではないかと思う。

(3) 東名遺跡屋外展示実施設計について

【資料3・4を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…アドバイザー

●：資料4-1のサイン計画について、皆さんも経験された方はご存知のように、どんな材質でもいたずらには勝てない。陶板ですら割る人がいたり、何をやっても駄目なことがある。そのため、最初から消耗品で取り替えられるような設計にした方が良いのではないかといつも思っている。印刷にしても、防水のものや上から合わせられるボードもあるので、何かうまくやる方法はないのか。恒久的に整備しても、掃除もしないのでカビ、苔などで痛むなど、サインはなかなか難しい。だから材質なども、東名ならではの考えた方が良いと思う。

資料4-1でのサイン計画は、あくまでも平面的な机上の検討であり、実際に地域の人たちと歩きながら、ここにはこういうのがあった方が良く落とすべきだろう。あくまでも事務局が、こういうのがあったら面白いだろうと考えても、ユーザー側がどういうものを欲しいのかということとは別の話になる。ユーザーは、そこで見たものが何なのかを知りたいと思う、その情報を現場で書くこと。また、ガイダンスや駐車場入り口に大きな案内板を立てても多分誰も見ない。利用者はどんどん中に入っていきたい

ものである。

勉強したい人はガイドンスがある。屋外で勉強する場をつくるのはやめた方が良い。もっと、へえーと思うような、そういう事を中心に簡単にイラスト等で表現するなど、特にスマホ世代は、面白くないと思ったらすぐ読むのをやめてしまう。QRコードなど携帯端末で情報が容易に得られることも考慮した方が良い。また、利用者の進行方向と地図の向き（方位）を必ず合わせる。利用者の頭の中で読み替えができず、地形と地図を見違えることになる。

案内板のサインでもう一つ大事なものは、記念撮影をする場所でもあるので、大体の観光客は写真を撮りに来ていて、遺跡の表示も大事だし、オブジェ的なものが合わせてあった方が良い。そういう場所が必要になる。

○：どこに何が必要かということは実際に歩きながら決めていきたいと思う。

●：実際に現地に行こうという気を起こすような仕掛け、写真撮影やいわゆる映えなど、そういうものを撮りたいと思わせるようなオブジェなり、景色なり、そういうポイントをしっかり作り込むということが大事だし工夫してもらいたい。

資料3の東名縄文館屋上からの眺望用の透明シートは、VRではなくて安い費用でできるという非常に良い考えだと思う。ただ、サステイナブルな社会をつくろうとしているのにプラスチックを配っているのか。配るのであれば、縄文館からの眺望の写真を写し込んで、再現画も写し込んでいるような紙のものを配るとするのが一番と考える。

また、紙のパンフレットは捨て場に困る。建築工事の中で省エネやエコの設備などを導入するのは費用面で困難であったようだが、サステイナブルな活動の中で、ゴミを出さない工夫をしているとか、そういうのを売りにすると良いのではないのか。SNSなどを利用して、チラシに掲載する情報を拡散できるような、そういう仕掛けを作っていただきたいし、今はそういうことができる時代だと思う。

●：資料4-3のフィジカルな部分での遺構の表現方法だが、貝を撒く基盤はコンクリートで、端部の水処理がうまくいっていないと、時間経過とともにコンクリートの側面がむき出しになったりしないのか。また、貝を撒いた床面のコンクリートの表面の仕上げはどうなるのか。貝との取り合わせで違和感はないか、他に類似の事例などはないのか、事務局の方で良く検討してほしい。

○：コンクリート端部の水仕舞いやコンクリート表面の仕上げなど検討する。

●：貝塚の表示は、貝殻がオブジェのようにあるだけという認知を受けてしまう。現地に行く理由として、以前の委員会でも意見が出た、例えばバードウォッチングやデイキャンプとか、そういう活用法については、結局進展はあったのか。また、体験イベントをやるということだが、そのための座る場所や夏場の暑さの問題、トイレの問題はどうなっているか。

○：具体的にはまだ進んでいない状況である。試しにやってみないとわからないという部分もあり、開催が可能かどうかという佐賀河川事務所（国交省）に対する相談を、実証実験を基に行いたいと考えている。イベントでは、仮設トイレ等の対応になると考えている。オープン後にどれぐらいの需要や頻度、それとともにどのぐらいの設備が必要になるか見据えた上で、次期整備を検討していく必要がある。

●：この場所に貝殻が埋まっているだけというふうになって、人が行かなくなるということが懸念される。後から使い道を探すというやり方もあると思うが、いくらかでも他の行く目的を作るというのは考えた方が良くと思う。

○：90×90cmの範囲ではあるが、貝殻の試験施工を行ってみて、やはり実物の貝はかなり迫力があるなどと思った。貝塚の表現として、出土した貝殻を実際にこの規模で撒くというのは、おそらく日本初だと思う。そういうことも含めて、他の目的も検討したいと思う。

●：それは業界でいうプロダクトアウトの話であり、専門の方にとってはすごいことでも、一般の人から見た時にはどうか。今回の施設は、客観的にマーケットが歴史に関心のある人だけではないということ視野に入れて考えてもらいたい。

●：多言語化は必ず行っていただきたい。英語はマストである。QRコード等を利用して内容を圧縮しても良い。それと、第6貝塚のスロープだけでなく、第3－5貝塚のスロープも車椅子の介助があれば現地まで行けるということであれば、「健常者向け」という表現はやめた方が良い。

巨勢川調整池の管理者である佐賀河川事務所（国交省）から何か意見はあるか。

■：専門的な史跡に興味のある方だけではなく、どう一般の方を現地に引き込むかという意見の中で、一例としてデイキャンプという話があった。巨勢川調整池は特に大雨の前後は急激な水位の変化がある場所であり、一般利用の安全面の確保が必ず大前提となる。一般客のデイキャンプ等の利用については、そこを踏まえて、今後どこまで協力できるのかを検討していきたい。

●：ちなみに水の中に入っただけのアクティビティは全く駄目なのか。釣りはどうなのか。

■：調整池の水底が急に深くなるような地形となっており、現在釣り人も散見されるが、やはり水難の危険性もあるので、今後は「釣りはご遠慮ください」という注意喚起の看板を現地に設置する考えでいる。

●：ガイドラインのようなものができて、何らかの安全対策ができれば使用できる可能性はあるのか。

■：一般河川をイメージしてもらいたいが、自由使用と安全面との折り合いは、なかなか線引きが難しい。

●：やはり水面に近づいていく危険性をなくすためには、フェンスを立てるということに

なるのか。

○：完璧な対策をしようと思ったらフェンスが必要になると思うが、そこまでは予定はしておらず、注意喚起のサイン設置を提案している。

●：水面の景観にうまく馴染んだような、そういう意匠の検討があるかと思う。

●：サインに関してだが、鳥の糞は強酸性なので腐食など考慮した方がよい。貝殻に関して、地下水はアルカリ性のはずだが、石英質のものはアルカリ性だと溶ける。酸性になると、今度は石灰質のものが溶けるということに留意しなければならない。これまでのモニタリング調査の地下水データがあるので、もしも対応が必要になった場合は何をすべきかということにも留意しておく必要がある。

●：資料3のガイダンス施設の来館者数は年間4万人とあるが、高い目標、ハードルである。令和5年度の九州陶磁文化館で入館者数は3.6万人であり、この4万人という設定が目標として適切なものかどうか検討いただきたい。

資料4-1の写真について、野鳥がたくさんいて、これが一斉に飛び立つというのは、実は他の県などでは有効な観光素材であり、お客さんが集まるような地域もある。こういう写真や資料を使いながら、例えばガイダンスだけではなく、東名遺跡周辺の景観ということで地域のPRに活用すれば、この地域に人が来たり、注目が集まったりするのではないかと。このような写真を「市報さが」などで表紙に使っていただくと、市民に対するPRにもなるのかなと思った。大変貴重な良い写真であると思う。

●：資料で使われている写真はすばらしく、魅力としてもっと宣伝したら良いと思う。東名縄文の会がフォトコンテストも行われているようだが、コンテストの結果や撮影ポイントなどは、ホームページなどで公開されているのか。この写真を見れば、多分みんなここに行きたいと思うだろう。

○：市報などでフォトコンテストの募集はされたが、コンテストの結果や撮影ポイントまでは、ホームページに掲載していない。

(4) 今後のスケジュールについて

【資料3・4を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 □…助言者

●：本日は三島委員と重藤委員が欠席になっているが、実際に屋外のプランについて、お2人共もこれまでの委員会で色々な意見を出されているので、個別に意見を聴取されて、問題点がないかどうか、もしも反映すべき意見があれば、それをしっかり反映できるように事務局の方で組み立ててほしい。

□：ガイダンス施設と現地とがほぼ同時に動いている中で、現地ではできないことがかなりあるという現状においては、ガイダンスの役割というのが非常に大きくなるのだろう。他の遺跡とは状況が異なるところがあるので、この辺の役割分担については、今後もさ

らにつめていただいて、どう展示するべきか、現地整備でどこまでできるのかという検討を進めていただきたい。

また、動線の中でバリアフリーの話も出たが、やはりバリアフリーは後から必ず問題になるので、設計の中でどこまでバリアフリー化をするのかということは十分検討して後から問題が起きないようにしていただきたい。貝塚の表示に貝殻を撒いている事例として、北海道の北黄金貝塚や、愛知の貝殻山貝塚などがあるので参考にしてほしい。

法的に設置していただく標柱や境界杭等の設置もよろしくお願ひしたい。今後こちらで情報提供できることがあれば、十分に対応したい。予算面（補助金）についても可能な限り協力していきたい。

□：東名遺跡の建設工事入札も無事に落札し、工事も着工されて安心しているところである。これから本格的に整備も進んで行くと思うので、県としても委員会のご意見を伺いながら、佐賀市とともに東名遺跡の整備をより良いものにしていきたいと思う。

●：どうもありがとうございました。それでは議事を事務局にお返しする。

○：本日の会議はこれで終了させていただきます。長時間にわたり、どうもありがとうございました。